

健康情報学科における学習技術習得のための初年次教育の試み

村上 香*・寺内かえで*・小村 堯*・室岡 義勝*・新田 昌弘*・高本 登*・
松林 弘明*・小川 英邦*・角川 幸治*・永澤 健*・槇 弘倫*・米澤 良治*

(平成20年10月28日受理)

An Approach to Study Skill for Freshmen in the Department of Health Science

Kaori MURAKAMI, Kaede TERAUCHI, Takashi KOMURA, Yoshikatsu MUROOKA,
Masahiro NITTA, Noboru TAKAMOTO, Hiroaki MATSUBAYASHI, Hidekuni OGAWA,
Koji KAKUGAWA, Takeshi NAGASAWA, Hiromichi MAKI, Yoshiharu YONEZAWA

(Received Oct. 28, 2008)

Abstract

Great change in their environment requires a special treatment for university freshmen during their pupil-to-student transition. Thus the so called “First Year Experiences” programs are nowadays introduced into many universities.

The staff members of the Department of Health Sciences have held a series of lectures called “Freshmen Seminars” in the first semester of 2008, two of which are assigned as “First Year Experiences.” Our own “First Year Experiences” lectures place special emphasis on their study-skills and self-management based on their self-consciousness of being a university student.

Our survey has revealed that the small-size class made up with five or six students enables most of the freshmen in our department to fully recognize the difference between high school pupils and university students as well as the importance of study-skills in their university lives.

Key Word: First Year Experiences, study-skills

1. はじめに

「初年次教育 (First Year Experiences)」とは、アメリカで1980年代から導入され始め、現在では大多数の大学が提供しているプログラムである。現在では世界20カ国以上に広がっている。このプログラムは、高等教育のユニバーサル化の進行に伴い、多様な学生が大学進学しているなか、高校から大学への大きな学習環境の変化に新入生を円滑に移行させ、脱落させず、学業や学生生活に成功するように大学をあげて支援するものである^{1), 2)}。

日本でも初年次教育は急速な拡がりを見せ始めるなか、本学においてもその必要性が検討されている。健康情報学科では、平成20年度前期「総合ゼミナール」に初年次教育の講義を2回導入した。本研究は、その実践と効果について検討したものである。

2. 実施方法

健康情報学科教員12名が担当し、1年生12グループを別々の教室に分けて、学生5～6名に対して教員1名の少人数で実施した。12グループが同じ内容を実施できるよ

* 広島工業大学情報学部健康情報学科

うに、テキスト兼、ワークブックを作成して、学生に配布した。また教員による指導方法に差がでないように、台本仕立ての教員用実施要領を学科オリジナルで作成して用いた。

3. 実施内容

本学での、初年次教育を先行している環境学部環境デザイン学科の実施内容および「大学からのスタディ・スキルズ 知へのステップ³⁾」を参考に、高校から大学への大きな学習環境の変化に適応し、積極的な姿勢で大学生活をおくることを目的に、「高校生と大学生の違い」を確認して、「時間管理の方法」や「学習技術」を身につけて自律して学生生活をおくれるように、本学科オリジナルの内容も含めて以下の項目で行った。

- I. 「高校生」から「大学生」へ
 1. 高校生と大学生の違い
 2. 積極的な姿勢で行動するポイント
- II. 積極的な姿勢で大学生活をおくるためのコツ：「時間管理」と「学習技術」
 1. 時間管理（タイム・マネジメント）
 2. 学習技術（スタディ・スキルズ）
- III. ノートの取り方と「聴く」技術
 1. ノートとメモの違い
 2. なぜ、ノートをとるのか？
 3. 講義ノートの取り方
 4. 要点を聴き取るためのコツ
 5. 講義ノートの例
 6. 模擬講義
 7. 講義ノートの自己点検
- IV. 積極的な姿勢で大学生活をおくるためのコツ：グループ・ディスカッション
 1. 状況別対応

4. 実施結果

(1) 学生対象アンケート結果

受講した1年生を対象としたアンケート結果を Table 1～7 に示した。受講生は 63 名、アンケート回答数は 58 名分で、全体の 92 % の意見が得られた。

Table 1 大学生と高校生の違い

	回答者数	
	人	%
(58 人中)		
理解できた	58	100
理解できなかった	0	0

設問：大学生と高校生の違いについて理解できましたか

Table 2 理解度

	回答者数	
	人	%
(58 人中)		
理解できた	44	75.9
どちらともいえない	13	22.4
理解できなかった	1	1.2

設問：講義内容（スタディ・スキルズ）について理解できましたか

Table 3 理解度が低かった理由

	回答者数	
	人	%
(14 人中)		
内容が多すぎた	5	8.6
速すぎた	4	6.9
自分の集中力がなかった	5	8.6
その他	0	0

設問：講義内容を理解できなかった、または、どちらともいえない、と答えた人にお尋ねします。理解が難しかったのはどういうところですか

Table 4 テキストについて

	回答者数	
	人	%
(58 人中)		
わかりやすかった	50	86.2
わかりやすいところと、わかりにくいところがあった	7	12.1
わかりにくかった	0	0

設問：テキストは分かり易かったですか

Table 5 講義内容の活用

	回答者数	
	人	%
(58 人中)		
役に立つので実践したい	35	60.3
役に立つと思うが実践しようとは思わない	2	3.4
役に立たない	3	5.2
わからない	17	29.3

設問：講義内容は役に立つと思いましたか

Table 6 模擬講義のノート評価

	回答者数	
	人	%
(58人中)		
よくできた	19	32.8
時々聞き漏らしたが だいたいできた	35	60.3
速すぎてついていけなかった	2	3.4
無回答	1	1.7

設問：模擬授業のノート取りについて、自己評価をして下さい

Table 7 今後受けたい学習技術

	のべ回答者	
	人	%
(58人中)		
レポートの書き方	12	20.7
ノートの取り方など講義に 関すること	11	19.0
試験や専門科目などの勉強の仕方	4	6.9
就職・資格に関すること	2	3.4
予習の仕方	1	1.7
学校生活	1	1.7
先生と仲良くなる方法	1	1.7
人間性の形成について	1	1.7
感想	17	29.3

設問：どのような学習の仕方について、指導を受けたと思いますか。記述して下さい。例：ノートの取り方、レポートの書き方など（自由記述）

(2) 教員アンケート結果

担当した教員を対象としたアンケート結果を Table 8～14 に示した。担当教員は 12 名、アンケート回答数は 12 名分であった。

Table 8 初年次教育について

	回答者数	
	人	%
(12人中)		
名称は聞いたことがあった	8	66.7
内容まで知っていた	3	25.0
今回初めて聞いた	1	8.3

設問：初年次教育やスタディ・スキルというものを以前から知っていましたか

Table 9 初年次教育の必要性

	回答者数	
	人	%
(12人中)		
必要	8	66.7
必要だか内容の検討が必要	3	25.0
必要ない	1	8.3

設問：このような初年次教育の必要性についてお尋ねします

Table 10 実施回数について

	回答者数		
	人		%
(12人中)			
1～2回	2	7	58.3
2回	5		
2～3回	1	2	16.7
3回	1		
4～5回	1	2	16.7
5回	1		
15回	1	1	8.3

設問：初年次教育の回数はどれくらいが適当とお考えですか

Table 11 教員用要領

	回答者数	
	人	%
(12人中)		
使いやすかった	9	75
使いやすくなかったが問題ない	3	25
使いにくかった	0	0

設問：教員用資料は使いやすかったでしょうか
※改善すべき点の記述が 1 点有

Table 12 講義内容量について

		回答者数	
		人	%
(12人中)			
話について	適切だった	9	75.0
	少し多い	1	8.3
	多すぎた	1	8.3
	2日目が少なかった	1	8.3
板書について	適切だった	9	75.0
	多かった	3	25.0
	その他	0	0.0

設問：内容量は適切でしたか

Table 13-1 講義中の学生の様子

(学生 63 人中)	回答者数	
	人	%
自発的にとっていた	17	27.0
近隣の様子をみてとった	16	25.4
指示によりとりはじめた	12	19.0
指示したが全くとろうとしなかった	10	15.9
全くとろうとしなかった	8	12.7

設問：学生はワークブックの1ページ目からノートをとっていましたか

Table 13-2 講義中の学生の様子

最初にワークブックの提出をはっきり伝えた、または、ノートを取るように指示した4グループ

(学生 20 人/63 人中)	回答者数	
	人	%
自発的にとっていた	4	6.3
近隣の仲間の様子をうかがってとりはじめた	1	1.6
指示されてとった	5	7.9
全くとろうとしなかった	10	15.9

設問：学生はノートをとっていましたか

Table 13-3 講義中の学生の様子

最初にワークブックの提出をほのめかした2グループ

(学生 10 人/63 人中)	回答者数	
	人	%
自発的にとっていた	5	7.9
近隣の仲間の様子をうかがってとりはじめた	5	7.9
全くとろうとしない	0	0.0

設問：学生はノートをとっていましたか

Table 13-4 講義中の学生の様子

最初にワークブックの提出を伝えなかった6グループ

(33 人/63 人中)	回答者数	
	人	%
自発的にとっていた	8	12.7
近隣の仲間の様子をうかがってとりはじめた	10	15.9
指示されてとった	7	11.1
全くとろうとしない	8	12.7

設問：学生はノートをとっていましたか

Table 14 学生数

(12 人中)	回答者数	
	人	%
今回くらいの少人数 (5, 6 名)	7	58.3
7, 8 名	1	8.3
10 名くらい	3	25.0
10~15 名	1	8.3

設問：このような講義をする場合学生の人数は何人くらいが適当ですか

5. ノートについて

教員アンケート結果によると、学習技術「ノートの取り方」を学ぶ前に、半数以上が自発的にまたは、周りの様子をみてノートを取っていた一方で、ノートを取らない学生が25%以上いること、その中にはノートを取るよう指示されてもノートを取らない学生が15%いることに驚かされた (Table 13)。

ワークブックを提出することをはっきり言った場合、ほのめかした場合、全く言わなかった場合でのノートを取る姿勢に関しては、意外にもあまり違いがみられなかった (Table 13)。しかし、グループごとにみると、自発的にノートを取り始めた学生のいた5グループについては、その他の学生のほとんどが周りの様子をみてノートを取り始めていた。

模擬講義では、模擬講義のノートを取った後、ノートを見ながら、その内容の小テストを解くという方法でその成果をみた。小テストの結果をみると、解答・解説後に、空欄があるままであったり、間違った答えを訂正していないものがあつた。その模擬講義ノートを確認してみると、該当するほとんどの学生のノートは内容の不足があり、途中でしか書かれていなかった。ノートの取り方だけでなく、テストを振り返り学習するということができない学生が18%もいることがわかった。一方、ノートがよくまとめられている学生の小テストは、間違った部分も適切に訂正されていた。おそらく、既に、ノートを取る技術など学習技術を身につけていた学生であったと思われる。

学習技術について理解はできていても、ノートの取り方という技術を身につけるには、訓練が必要であると感じられた。

6. 成果と課題

受講生のうちアンケートに答えた学生全員が、大学生と高校生の違いについて理解ができていた。高校生と大学生の違いを知ることにより、改めて大学生として自律するこ

との意義も理解できたであろう。学習技術については、76%の学生が理解できていた。「どちらともいえない」「理解できなかった」と答えた理由としては、「自身の集中力不足」もあったが、速さや内容を理由に挙げているものもいた (Table 1-3)。複数回の訓練が必要であるのかもしれない。今回、実施回数は2回であったが、3回以上必要であると答えている教員も半数近くいた。また、学生からは講義に関することやレポートの書き方などの学習技術を学びたいという希望があり、教員からは、予習・復習の仕方、図書館の利用の仕方などの学習技術の必要生を感じているという意見があった。

また、グループ・ディスカッションについては、あまり学生が自発的に活発にできていなかったという教員の感想もあった。グループ・ディスカッションの訓練についても検討が必要であろう。

初年次教育について内容まで知っていた教員は3名しかいなかったが、今回はテキスト・ワークブックを作成するだけでなく、教員用の資料として、板書内容も指示した台本仕立ての要領を作成、配布して、15分程度の説明をすることにより、各教員が同一内容を実施することができた。その結果が、学生の授業内容の高い理解度へつながったと考えられる (Table 1, 2, 8, 11 and 12)。

今回は、5, 6名の学生に対して教員1名の少人数グループで行った。半数以上の教員は、このような講義は少人数で実施することが適切であると答えた。また、多くても10～15人以下で実施することが望ましいようである。今回、1グループあたり5, 6人を対象に実施した結果、学生1人1人の反応を見ながら授業を進めることができ、学生にも伝わりやすいという実感が教員に得られていた。また、今回は、学習技術に合わせて、本来大学生の行動として当然のことではあるが、なかなか学生が実践できない、授業態度や授業を欠席した時の対応などを、本学科オリジナルの内容でQ & A方式やグループ・ディスカッションという方法を用いて学生に確認させることにより、その後の学生の態度が良好になったとの評価も得られた。

3. 文献

- 1) 濱名 篤, 初年次教育の実践, 大学改革がわかる, p.39-41, 朝日新聞社, 2003年
- 2) 初年次教育学会
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jafye/shuisho/index.html>
2008
- 3) 学習技術研究会, 大学からのスタディ・スキルズ 知へのステップ 改訂版, くろしお出版, 2006年